

令和4年度第1回富山県技術専門学院見直し検討部会（書面）の概要

1 協議期間 令和4年8月30日から令和4年9月5日まで

2 書面開催参加者

会 長	中村 真由美	委員
	長 祐二	委員
	森川 幸夫	委員
	根塚 三起生	委員
	東出 悦子	委員
	岩本 健嗣	委員
	能登 一秀	委員
	安田 晃	委員
	清水 正明	オブザーバー
	宿谷 慶	オブザーバー

3 協議事項

富山県技術専門学院訓練科見直しの具体案について

4 協議結果

概ね事務局案のとおり了承された。

5 主なご意見

- ・ 事務系訓練科の名称が「ビジネス事務科」だと、IT を充実させた点が伝わらない。科名を再検討すべき。
- ・ ビジネス事務科の見直し内容「オンライン訓練は、今後、段階的に本格実施に移行する」については、より具体的に記載したほうが見直しの本気度が伝わってきて良い。例えば、週5日のうち2日だけでもハイブリッド受講（対面+オンライン）ができれば、子供を育てている方でも受講しやすくなる。
- ・ 能力開発セミナーの IT 系の訓練メニューで、全てオンラインで受講可能なものを設けられないか。
- ・ 機械・制御エンジニア科について、設計・加工・組立・制御まで知識のあるオールマイティな人材は、応用が利くので現場で重宝する。会社としてもニーズが高い。
- ・ 働く現場をイメージさせるためには、機械器具を整備することは重要。

- ・ 技専を知らない人がいるので認知度を高めることが必要。
- ・ ビルメンテナンスについては、資格を持った人がビルに常駐していることが重要な
のであり、元気な年配の方の雇用を作るためにも、ビルメンテナンス科の新設は良
い。
- ・ 本校にビルメンテナンス科を新設し、多数の機械器具を整備することとしているが、
スペースの確保など適切に行ってほしい。
- ・ ビジネス事務科で IT パスポートの取得を目指すことは、女性のデジタル人材育成と
いう流れにも合っており望ましい。IT パスポートの資格取得に必要な科目には、実
務に深く関わるものとそうでないものがあるため、それを踏まえて訓練を行う必
要がある。
- ・ 今後広報に当たっては、資料に就職先・実績の記載があれば良い。
- ・ 新設する建築系の科目について、技術専門学院は離転職者訓練を、民間は新卒者の
専門教育を担うという役割分担を維持すること。
- ・ 女性のデジタル人材を育成するためにも、ビジネス事務科に IT を充実させた点は非
常に良い。企業の立場で言うと、IT パスポートの資格を持った人材は今企業が最も
欲しい人材である。
- ・ 目指すべき人材像を明示して訓練を実施し、人材を育て、企業から高い評価を得て
受け入れてもらうことが重要。そのことを広報していけば入校生を増やすことにつ
ながるだろう。
- ・ 月ごとに訓練のアクションプランを作成するとともに、講義ごとの達成目標を立て、
それを訓練生に理解させるようにしてはどうか。訓練生に「技術を身に付けて、将
来仕事をする」という認識をもたせるべき。
- ・ 電子情報/IoT 科などの名称変更は受講希望者にとって分かりやすく、妥当である。
- ・ CAD 関連科については、ポリテクセンターでも 2 科実施しているので、受講希望者の
入校機会を増やすためにも、入校時期をずらすなどの調整が必要。